



「博物館に相当する施設」の 指定を受けました



LED照明へへの入替工事の様子



展示ケースフィルム工事の様子

展示施設整備の工事にとりかかり始めました

当館は、2012年度に「博物館相当施設」指定登録のための申請をし、現地審査会等を経て指定を受けました(2013年2月5日付)。

今後は、学芸員資格を取得するための講義の実習を実施したり、学内の学生により多く授業の場として提供しやすい環境になります。

博物館は、授業や見学において教材として活用するために一層工夫をして、博物館の施設環境や展示環境の整備をすすめていきたいと計画しています。

索引

「博物館に相当する施設」の指定を受けました

2012 秋季行事報告

◇2012 秋季展示

写真展 トプカブ宮殿に秘蔵されてきた〈謎めいた絵画作品〉に見る、15世紀・東西アジアの文化交流～シルクロード(砂漠・草原の道)の終焉
民族資料博物館副館長 宇治谷 恵

◇研修会

愛知県博物館協会研修会
民族資料博物館 原田千夏子

◇2012 秋季連続講演

第一回「秋季展示に寄せて～トプカブ宮殿秘蔵絵画にみる15世紀 東西アジアの文化交流」
民族資料博物館 副館長 宇治谷 恵

第二回「色彩と脳 ～目の不思議世界」
国際人間学研究所 所長 前田富士男

第三回「美のかたち(フォルム)」
民族資料博物館 外部専門者 日本美術院 特待 下川辰彦

- 1
- 2
- 2
- 3

◇特別講座

「古典絵画(絹絵・板絵)を描く」始まる
民族資料博物館 原田千夏子

◇課外授業

「博物館における高校課外授業の実施」
国際文化学科 准教授 財部香枝

2012 冬季行事報告

◇冬季企画展示

「古典絵画(絹絵・板絵)を描く」受講生作品展
民族資料博物館 原田千夏子

◇トピック

《協力行事》国際文化学科セミナー
国際文化学科 准教授 財部香枝

平成25年度版「開館日カレンダー」を作りました
2013 上半期(春季・夏季)行事案内

- 5
- 5
- 6
- 7
- 8

9月
|
12月

■ 2012 秋季展示

写真展 トプカプ宮殿に秘蔵されてきた 〈謎めいた絵画作品〉に見る、15世紀・東西アジアの文化交流 ～シルクロード(砂漠・草原の道)の終焉

|| 期間 || 平成24年9月25日(火)～12月14日(金)

|| 会場 || 民族資料博物館 多目的室、1Fエントランス

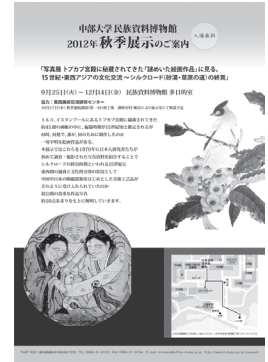
「写真展 トプカプ宮殿に秘蔵されてきた 〈謎めいた絵画作品〉に見る、15世紀 東西アジアの文化交流 ～シルクロード(砂漠・草原の道)の終焉」について

中部大学民族資料博物館の多目的室では、学内外の民族資料に関する研究の成果を特定のテーマをもとに総合的及び体系的に紹介する企画展示を年に数回開催している。この展示は準備段階から学内の教員だけでなく外部専門家が積極的に関わるようにしている。2012年秋に開催した企画展示はトルコ、イスタン

ブールにあるトプカプ宮殿に秘蔵されてきた、編集時期が15世紀と推定される約45冊の画帳から代表的な絵画作品を写真資料(約50点)として展示した。1970年代に日本人研究者により初めて調査・撮影された貴重な写真資料を展示することは国内の博物館では初めてのことであった。シルクロードの終焉時期

といわれる15世紀の東西間の通商や文化的交流などのかたちやしくみを解析するうえでも、この絵画作品には図像、文様、色彩そして技法など謎めいた課題を多く示唆しており、今後のシルクロード研究に貢献するものと思われる。

この展示を開催するにあたり、杉村棟国立民族学博物館名誉教授、東西美術交流センター、全日本社会貢献団体機構はじめ多くの関係者の方々のご協力を賜りましたことに深く感謝する。(宇治谷)



展示風景



10月

■ 研修会

愛知県博物館協会研修会

|| 期間 || 平成24年10月26日(金) 10時30分～16時

|| 会場 || 中部大学リサーチセンター 大会議室

今年から、愛知県博物館協会に入会したことから、さっそく協会の研修会が会場として利用された。内容は、外部有識者講演として、蓑 豊氏(兵庫県立美術館 館長)と、当館副館長による館の活動概要を説明した後、参加者は博物館へ移動し、展示室の見学をして終了となった。

今後も、こうした場に積極的に参加し、他の美術博物館の学芸員らとの交流を深めたい。(原田)



研修会の様子

10月
|
11月

■ 2012 秋季連続講演

比較芸術学講話

美の彩りとかたちのしくみ、 東西美術交流に読み解く

|| 会場 || 中部大学リサーチセンター 大会議室



秋季連続講演チラシ



講師らの著作を1Fエントランスに展示

■ 連続講演 1 | 10月17日(水) 15:30~ |

講師：杉村 棟 氏 (国立民族学博物館 名誉教授) 司会：宇治谷 恵 (民族資料博物館 副館長)

「秋季展示に寄せて～

トプカプ宮殿秘蔵絵画にみる15世紀 東西アジアの文化交流」

平成24年10月17日、午後3時30分より、中部大学リサーチセンターにて、国立民族学博物館名誉教授杉村棟氏によって、民族資料博物館多目的室で公開されている企画展の関連事業として講演会が開催された。

杉村先生はイスラーム地域を中心とする東西美術交流、特に絨毯、陶磁器そして絵画などから見たシルクロード文化研究の第一人者である。お住まいの神戸から多忙ななかお招きして、

上記のようなテーマで様々な視点からのお話を聴くことができた。

お話の内容は、まず始めに、近年のイスラーム研究及び中東学会やオリエント学会等のわが国におけるシルクロード研究の動向が紹介された。次に本題としてのイスタンブール、トプカプ宮殿についての歴史や概要及び、秘蔵されている15世紀に編集された絵画作品の由来、伝播、そして図像や文様など多様な話題が提供された。さらに、中国との関りだけでなく、わが国の絵画や刺繍などへの影響までも展開された。特に鷹狩り図像については興味深いものであった。講演終了後には展示室に移動して資料解説も開催することができ、先生のシルクロード研究に対する造詣や熱意を身近で感じることもできた。

本題とはずれるが、先生のお話のなかに、最近の若い研究者はあまり海外での学会やフィールドワークに参加しないことが気になりとの指摘があった。講演会場は多くの参加者で熱気に溢れていたが、若い学生諸君の数が少ないことが気になったのである。 (宇治谷)



講演風景 (中央・講師 杉村 棟氏)

講師：小町谷朝生 氏（東京藝術大学 名誉教授） 司会：前田富士男（国際人間学研究所 所長・人文学部コミュニケーション学科 教授）
共催：国際人間学研究所

「色彩と脳 一目の不思議世界」

色彩学の第一人者である小町谷氏は、色彩と人間の知覚の関係性について、先史から古典、さらに現代までの幅広い時代にわたる芸術作品を通じて人間の深層をみつめる研究をされている。そのジャンルは、絵画、文学、宇宙工学、自然現象など多岐にわたる。私たちの身近な生活空間に存在する事物が、光や影の見え方に応じて与える印象を大きく変える理由や、またそうした記憶が国や地域の文化の土壌に深く関わっていることは、私たち人間のルーツ、はてはDNAの根源にまで遡って生命誕生の神秘に行き着く。

小町谷氏の語る問題は、この世界がどれほど魅力に溢れた不思議であるかを提示してやまない、そんな「ロマン」が根底にあるところに、多くの人々が惹かれるのだろう。

小町谷氏の豊富な話題性と英知の姿は、若者に向けて知の魅力を発信するパワーとして、高校生の教科書や大学入試問題に採用されるなどして、専門分野に留まらず、これまでに幾度も社会全体

を牽引する存在と期待されてきた。そのような「知の巨匠」たる小町谷氏の息吹を少しでも本学の学生諸君たちにも感じてもらいたいと考え、博物館と本研究所の共催企画というかたちの講演で語っていただくよう切望してきた。

彪大で密な小町谷氏の研究世界をわずか一時間程でうかがうことは到底できず、聴衆の方々も物足りなさを感じられたかもしれない。これからは、氏の多数の著書を手にとりいただき、奥深い旅に足を踏み入れてみてはどうかとお勧めするしだいである。（前田）



講演風景（左・講師 小町谷朝生氏）

講師：川上 實 氏（元愛知県立芸術大学学長、現同大学名誉教授） 司会：下川辰彦（日本美術院 特待、民族資料博物館 外部専門家）

「美のかたち（フォルム）」

文化を比較する、という研究の観点を持つことは難しい。なぜなら、一つの分野を深く追究することさえ難しいからである。しかし、あえて比較芸術学の分野の重要性を目指した学派が東京藝術大学において生まれ、本講演の講師である川上氏もその土壌で豊かな知性を養われた一人である。ドイツ美学をボン大学にて研鑽され、言葉において客観的に芸術作品を分析するヨーロッパの芸術鑑賞のメソッドを徹底的にトレーニングされた氏は、留学から帰国後、愛知県立芸術大学に着任され、現在まで東海・中部地域の芸術振興のために長い期間にわたって指導的な立場で貢献されてこられた。



講演風景（左・講師 川上 實氏）

本講演では、東洋と西洋の美術作品の、建築、絵画、彫刻、工芸、庭園などの多様な芸術分野をみていながら、そこに共通した特徴、美の「規範」を通じて、比較しながらそれぞれの独自性の源を確認するという方法をとる。終始講演では、氏のやわらかな口調のなかで、芸術に対する憧憬、敬意がにじみ出ている、研究という固い表現ではなく、やはり美とは「味わう」ものであるところに、楽しみがあり、それを人間が心から感じとることのできた瞬間の感覚を喜びとして再認識させてくれる。かくゆう私も、川上氏は県芸大の在学中の恩師であり、大先輩として、私が作家として生きる苦楽をぶつける相手であり、また多くの作家が良き理解者として支えられてきた。氏の抱く芸術へのかわらぬ静かな熱意が講演中も感じられ、かつての懐かしい学生時代の講義を想起する心持になり、嬉しくもあった。

川上氏は本学園とはかねてより縁もあって、当館の立ち上げ当初より助言指導を賜ってきている。本学が近隣地域とより発展した文化交流をすすめていくために今後も御教示いただきたいと思っている。（下川）

9月
|
2月

■ 特別講座

「古典絵画（絹絵・板絵）を描く」開催

■ 期間 | 平成24年9月19日(水)～2月20日(水)

■ 会場 | 民族資料博物館・10号館106 Gゼミ室

昨年度にひきつづき、一般対象の実技制作講座として「絹絵」の教室を開講するほか、「板絵」の教室を新たに開講した。絹絵、板絵はともに日本画における伝統的な技法を要する絵画の種類で、その名のとおり、紙に描くのではなく、絹や板を基底材として扱うことになる。顔料や墨をこれらの基底材に定着させるためには、そのための技術を駆使する必要がある。

講座では、国風文化において浄土教美術に昇華した平安仏画やそれら古画を研究した近世の琳派の絵師たちの技と感性について、作品制作を通じて体験し近づくことができるよう学ぶこ

とを目的としている。

顔料や墨、膠、和紙などの天然の材料を素材として用いる日本画の事例をもとにして、当館では、さまざまな素材を研究するよう試みている。収蔵しているさまざまな民族資料をどのように学んでいくか模索するなかで、その構造や意味を理解するために、まず「素材」を基本に考えていく。本講座は、当館の調査研究活動の一環として位置づけ、今後の比較文化研究に役立てていくとともに、一般に向けて大学教育の普及を試みて地域の文化発展の貢献の一助になるような活動に結びつけていきたい。(原田)



「絹絵」制作風景



「板絵」制作風景

11月

■ 課外授業

国際関係学部による高校課外授業の実施

■ 期間 | 平成24年11月15日(木)

■ 会場 | 民族資料博物館 常設展示室・多目的室



高校の課外授業で展示資料の解説を行う様子

講師：和崎春日（国際関係学部長・民族資料博物館館長）、財部香枝（国際文化学科 准教授）、野田真里（国際関係学科 准教授）、宗 婷婷（中国語中国関係学科 講師）

大学見学会に参加した春日井市内の高校2年生（文系）が、民族資料博物館にて4グループに分かれ、それぞれ担当講師から世界各地の文化・社会について説明を受けた。

その後、合同ディスカッションでは、講師の海外フィールドワークに基づくクイズに答えながら、各地域を学んでいった。

後日、「珍しい民族楽器を触ることができて感激した」、「環境によって、衣服の厚さや形が異なることを知った」、「改めて世界は広いと感じ

た」、「機械を使わずに、こんなにも丈夫そうな武器や装飾品をどうやって作るんだろう？すごい！」などなど、疑問や驚きで、とても楽しい時間になった」等の感想文が寄せられ、すべての感想文に対し、和崎講師が疑問に答え、またコメントを付けた。

高校生の学びの場であるとともに、講師にとっても高校生の他文化理解の過程を理解する有意義な機会となった。(財部)

3月
|
4月

■ 2012冬季展示

特別講座「古典絵画（絹絵・板絵）を描く」受講生作品展 — 絹絵と板絵・発表展示

|| 期間 || 平成25年3月22日(金)～4月12日(金)
|| 会場 || 民族資料博物館 多目的室・1Fエントランス

出品者：特別講座「古典絵画（絹絵/板絵）を描く」受講生、及び講師（賛助出品）
指 導：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館外部委員）

9月より始まった「絹絵」と「板絵」の作品制作の講座の受講生による完成作品を、3月下旬より博物館において展示発表した。

初心者から経験者までさまざまな受講生に対して、指導講師はそれぞれの進捗に応じて丁寧に指導したことから、各受講生は、決して容易とはいえない日本画の制作を、一定期間にわたって興味関心を持って高い学習意識を維持しながら参加した。

特に、絹絵における裏彩色や、板絵における箔や胡粉の扱いなど、他の文化施設では受けることが稀な技術を知る機会是非常に貴重である。しかし、それだけではなく、絵画の制作には、描き手の心情を技術に託していかにも表現を創り上げていくかという点で、作品と向き合う姿勢、精神性を保持し、内面を高めていくことがいかに重要であるか、制作を通じて講師が伝達していたことが印象的であった。

本講座の制作工程、および素材研究に関する報告については、当館の調査研究事業の一環として別にまとめる予定である。また、本講座の第三弾として、25年度においても開催することとなった。（原田）



展示チラシ



制作に用いた材料の一部紹介



展示風景

■ TOPIC

協力行事

国際文化学科セミナー

|| 日時 || 平成24年11月9日(金) 13時35分～15時5分

|| 会場 || 中部大学1032講義室

|| 講師 || 秋山かおり氏

(松本市立博物館・総合研究大学院大学・人間文化研究機構共同研究員)



セミナーの様子(左:講師の秋山氏)

〈演題〉 展示のなかの「他者」との出会い —ハワイを事例にして—

秋山氏は、常にエスニックグループ同士の緊張関係があるハワイをフィールドにし、歴史展示表象の研究を進めている新進気鋭の研究者である。

博物館において、来館者が展示の中で自分以外の他者を発見する事によっていったい何が起きるのか、つまり展示における他者の表象が持つ意味とその効果、ならびに問題といった、抽象的になりがちなテーマを、具体的な事例を挙げながら説得力のある講演を行った。

たとえば、2009年の企画展「Celebrate! : Evolution of Japanese Celebrations in Hawaii」(ハワイ日本文化センター:JCCH)の一枚の写真は、感謝祭で七面鳥の代わりにパイナップルにて祝う日系人コミュニティを示していた。

一方、展示の方法論として、エスニックグループ同士の緊張感がある社会において一致しない部分を調整する役割、否定ではなく「他者」の受容へとつながるオーラルヒストリーの有用性にも敷衍した。

最後に、「博物館の展示は常に認識していた「他者」を展示鑑賞という作業を通じて、自分と他者との線引きを、常に引き直すことを要求する可能性のある場にも成り得る」と結論付けた。

参加者は、学部生、大学院生など約40名であった。

(財部)

■ TOPIC

平成25年度版「開館日カレンダー」を作成しました

当館の休館日、および特別開館予定日を記したカレンダーを作成しました。大学催事では、ふだん閉館している土日祝日に開館する予定日もあります。また、学校等の教育施設の団体見学については、事前申請いただくことで、休館日においても見学をできるだけ受け入れる予定です。
 (※ただし、大学入試日や、大学一斉休暇期間等を除きます)
 課外授業、研修会等の利用希望など、ご関心のある方は、まずは博物館事務室へお問い合わせください。
 ホームページからも「申請書」様式がダウンロードできます。
 「展示室における団体見学」をご参照ください。

<http://www3.chubu.ac.jp/museum/>



5月

◆春季企画展示 5月29日～8月1日

「海のシルクロードと手織り絨毯展」

8月

◆春季連続講演 5～8月

「海のシルクロード」

場所：リサーチセンター大会議室

《講師予定者》

- 畑中幸子氏 (中部大学名誉教授・人類学)
- 吉田孝次郎氏 (財団法人 祇園山鉾連合理事長・文化保存活動)
- 小山修三氏 (元吹田市立博物館館長・文化人類学、考古学)

7月

◆夏季常設資料コレクションミニ展示 7～8月

「仮面と物語り(仮称)」